

議員提出議案第七号

带状疱疹ワクチンへの助成並びに定期接種化を求める意見書

本案を次のとおり提出する。

令和四年十二月十四日提出

箕面市議会議員 楠 政 則

同 高 橋 竜 馬

同 神 代 繁 近

同 中 井 博 幸

議員提出議案第七号

带状疱疹ワクチンへの助成並びに定期接種化を求める意見書

带状疱疹は、過去に水痘に罹患した者が、加齢や過労、ストレスなどによる免疫力の低下により、体内に潜伏する带状疱疹ウイルスが再燃し発症するものである。

日本人では、五十歳代から発症率が高くなり、八十歳までに三人に一人が発症するといわれており、治療が長引くケースや後遺症として痛みなどの症状が残るケースもある。

この带状疱疹の発症予防のために、ワクチンが有効とされているが、費用が高額になることから接種を諦める高齢者も少なくない。

带状疱疹による神経の損傷によつて、その後も痛みが続く「带状疱疹後神経痛」と呼ばれる合併症に加え、角膜炎、顔面神経麻痺、難聴などを引き起こし、目や耳に障害が残ることもあるともいわれている。

そこで政府に対して、一定の年齢以上の国民に対するワクチンの有効性等を早急に確認し、带状疱疹ワクチンの助成制度の創設や予防接種法に基づき定期接種化を強く求める。

以上、地方自治法第九十九条の規定に基づき意見書を提出する。

令和四年十二月二十日

箕面市議会